麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属　獣医学科　　職階　助教

氏名　西　晃太郎

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1．教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
2．教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
3．教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
4．教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・毎年
5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6．学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
7．指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
8．今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年

1．教育の責任　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

臨床教育においては、実践と基礎知識の統合を重視し、診療現場で得た所見を病態生理・鑑別診断・検査計画へと結び付けて指導している。学生・研修医が自ら考え、根拠を言語化し、状況に応じて柔軟に判断できる思考力の育成を教育責任の中心に置いている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	約140
総合獣医学	獣医学科	必修	6	約140
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	約140
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	約5
小動物獣医総合臨床Ⅲ	獣医学科	必修	5	約140
獣医内科学	獣医学科	必修	4	約140
獣医内科看護学	獣医保健看護学科	必修	2	約80

2．教育の理念　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2025年4月

単なる知識の伝達にとどまらず、学生が主体的に考え、学び続ける姿勢を育むことが重要だと考えている。小動物内科学としての教育においては、臨床現場で即戦力となる実践的なスキルと、科学的思考に基づく論理的な判断力の両方を身につけた状態が望ましい。そのため、「主体的な学びの促進」「多角的な視点の涵養」「実践と理論の統合」を重視した教育アプローチを採用している。
獣医師は伴侶動物のみならず、畜産、水産、農業、研究など多分野において社会的需要があり、学びの場はそれらを認知してもらう時期と考えている。これにより、自らの立場や使命を確立し、より専門性を高めるステップを歩みやすくしていく。
基礎的な知識と研究的観点からの視点は、臨床を遂行する上で多角的に判断する重要な材料となる。そのため、常に解剖学、生理学、生化学などの知識を付随した問いかけやディスカッションを目指す。

3．教育の方法　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

単なる知識の伝達にとどまらず、学生が主体的に考え、学び続ける姿勢を育むことが重要だと考えている。小動物内科学としての教育においては、臨床現場で即戦力となる実践的なスキルと、科学的思考に基づく論理的な判断力の両方を身につけた状態が望ましい。そのため、「主体的な学びの促進」「多角的な視点の涵養」「実践と理論の統合」を重視した教育アプローチを採用している。獣医師は伴侶動物のみならず、畜産、水産、農業、研究など多分野において社会的需要があり、学びの場はそれらを認知してもらう時期と考えている。これにより、自らの立場や使命を確立し、より専門性を高めるステップを歩みやすくしていく。基礎的な知識と研究的観点からの視点は、臨床を遂行する上で多角的に判断する重要な材料となる。そのため、常に解剖学、生理学、生化学などの知識を付随した問いかけやディスカッションを目指す。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

常に「こうしようか」ではなく、「どうしようか」という投げかけを行い、自らの責任感と行動力を養うようにしている。

（2）ICTの教育活用

無

着任して浅いため、今後動画教材を含めて検討していく。

4．教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

特に実習では５感を最大限に活かすことが重要である。一方で、実際の検体や材料の使用に制限がある現状を加味し、できる限り生の臓器・組織を扱う環境づくりを目指している。例えば、食肉の臓器でハンドリングや実習を実施するなど、身体で学ぶことも重視している。

（2）学生の理解度の把握

C

着任して浅いため、まだシステム構築に至っていない。小テストなどを実施予定である。

（3）学生の自学自習を促す工夫

A

何故その事象が起こっているかについて、明確な答えは出さず調べてきてもらうことにしている。調べてきた内容を複数人でディスカッションする場を設けるようにしている。

（4）学生とのコミュニケーション **A**

特に臨床現場において、声を掛け合うことの重要性や発言を恥と思わないように、頻繁に声がけを行い、気軽に相談できるよう取り組んでいる。

（5）双方向授業への工夫 **A**

上記と同様に、積極的な声がけを重視してより身近な存在となるように取り組んでいる。

（6）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科） **A**

専門的な知識に偏りがちな大学教育では、国家試験の幅広い分野を浅く広く学ぶために要点を押さえていく能力が重要となる。そのため、教える範囲については、頻出な範囲からウェイトを置きつつも、広域に押さえるべき点は伝えるようにしている。

5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）授業評価アンケート結果の授業への反映

着任して浅く、特に大きな意見もなかった。

（2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

5年生の病院実習では、学生がクオリティの高いスライド作成をしており、効果を実感している。外部学会での発表も考えられるレベルに仕上がっている。

（3）（2）を踏まえた次年度の取組

今後はより理解の深まりやすい教育方法を模索していく。

6．学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

実臨床からの学びを基礎に落とし込むようにしている。具体的には、症例に対して、その原因となる臓器、組織、細胞レベルでの変化、解剖学的特徴などを調べてもらうことで、全体的な科目バランスの取れた成績上昇が見込める。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

内科という幅広い分野を扱う中で、幅広い知識がついてきていると聞いている。

7．指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

すでに教員としての暦が長い先生方から、具体的な指導方法などを聞くようにしている。

8．今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

短期的には、研究による思考力の上昇と実臨床での実際に手を動かして学ぶことの重要性を伝えられるようにする。長期的には、その成果を活かして学生同士で教育し合える、学び合える環境を築く。

９．ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年4月

（自ら作成するもの）

１．授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料等）

２．教育改善に関するもの

教育に直接貢献する研究、FDプログラム等への参加記録、教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等）、教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

１．学生から

授業評価データ、授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等）、卒業生からの授業や教育についてのコメント

２．同僚から

授業参観の講評、作成教材についての意見、同僚のサポート実績

３．大学／学会等から

教育に関する表彰、教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類、カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育／学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化、学生の小論文・報告書、学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例、特に優秀な学生についての記録、指導学生の学会発表などの成果、学生の進路選択への影響についての事実、学生のレポートの改善の軌跡